黙示書を学ぶ

ダニエル書（旧約聖書）
黙示録（新約聖書）

眞鍋 孝 著

第 2 版

目次

はじめに.....3
旧約黙示書（ダニエル書の読み方を学ぶ）.....4
序論：.....4
南北王国時代の王と預言者.....5
捕囚期後の３預言書の歴史的背景：.....6
ダニエル書　.....6
緒論：（Ｊ．ドワィト・ペンテコステのものに基づく）.....6
歴史的背景：　.....7
ダニエル書　梗概：.....8
ダニエル書に見るキリスト預言：.....8
ダニエル書における５つの幻.....9
新約黙示書（ヨハネの黙示録を学ぶ）.....11
序論：.....11
ヨハネの黙示録　梗概：.....12
ヨハネの黙示録　アウトライン：.....14
本論ー「救いの完成とキリスト再臨」を黙示録に探る：.....16
＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「今ある事」よりの考察＞.....16
＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」での７つの封印の考察＞.....16
＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」７つのラッパの考察＞.....17
＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」７つの鉢の観察＞.....18

はじめに

この資料は、「ＯＣＣカレッジ「聖書神学部門」で、２０１２年３月２４日、および、３月３１日に行われた、眞鍋孝師による講演です。

著者：眞鍋 孝

プロフィール：

現：日本メノナイトブレザレン教団 教職（牧師）

1973年 米国ダラス神学校修士課程卒（組織神学専攻)

1974年 米国テキサス大学大学院修士課程卒
（言語学専攻）

1984年 米国テキサス大学大学院哲学博士課程卒
（人文科学解釈学専攻）

ウィクリフ聖書翻訳宣教師、石橋キリスト教会主任牧師、
福音聖書神学校校長、日本福音主義神学会(西部) 理事、
ＩＣＯＭＢ（国際ＭＢ共同体）委員等を歴任。

● 表紙の写真：パトモス島

（使徒ヨハネが神からの啓示を受け、「黙示録」を記した場所。）

http://commons.wikimedia.org/wiki/File%3AChora_di_Patmos_con_il_Monastero_di_San_Giovanni_%22il_teologo%22.JPG

旧約黙示書（ダニエル書の読み方を学ぶ）

２０１２．３．２４

序論：

　聖書の中で、一書全体が黙示文学の範疇に考えられている書が二つある。旧約のダニエル書と、新約のヨハネの黙示録である。（書の一部分が黙示文学として考えられているものとして、エゼキエル書37～47章；　ゼカリヤ書１：７～７：８　がある。）　両書は、ともすれば他の聖書の書物と比べて、あまり読まれていないようである。黙示文学であり、意味を確定するのが困難であると表面的な評価を受け、教会の礼拝で講解されることもほとんどない状況である。しかしながら、これらの書はれっきとした聖書正典であり、そこには神が人間に必要とされる真理が啓示されているのである。その意味で、これらの書をしっかりと読み取って聖書全体のメッセージをより適格に理解させていただきたいと願う。黙示文学だから普通の読み方ができないと一方的に考えるのではなく、その書を記した著者が何を意図してその書を著したかを根気よく本文から見極めていくことが肝心である。

　ダニエル書の歴史的な位置付けのために、先ず、捕囚期前の預言書（年代順に、オバデヤ書（南王国）、ヨエル書（南王国）、ホセア書（北王国）、ミカ書（南王国）、アモス書（北王国）、ヨナ書（北王国）、ナホム書（南王国）、ゼパニヤ書（南王国）、ハバクク書（南王国））を次のページの表「南北王国時代の王と預言者」で確認したい。

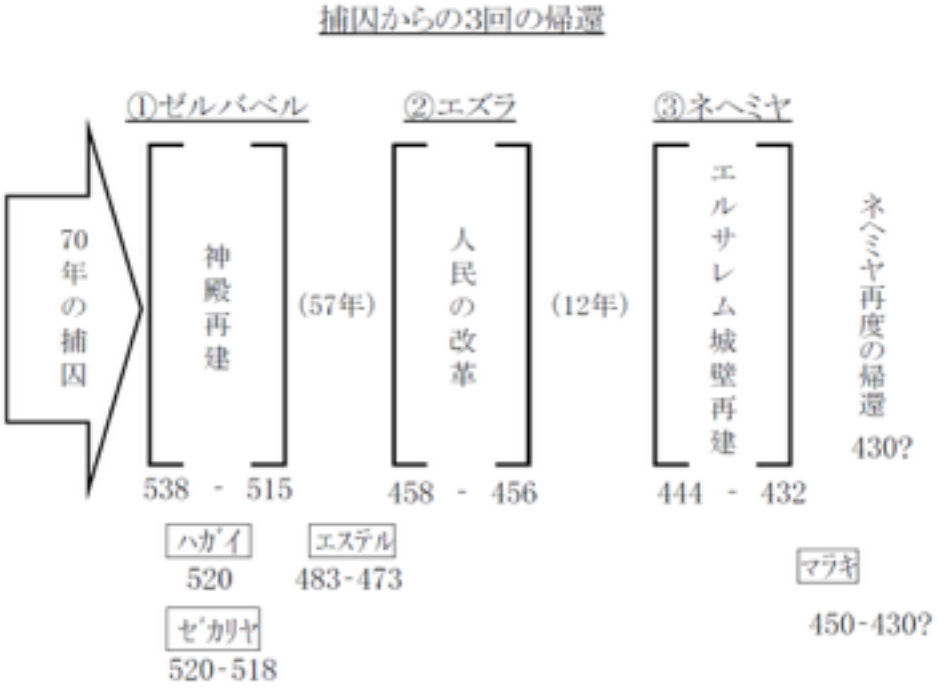
南北王国時代の王と預言者

ユダ王国（南）			イスラエル王国（北）			
王	年代	年数	王朝	王	年代	年数
レハベアム	931−913	17	第一王朝	ヤロブアムI	931-910	22
アビアム	913−911	3	〃	ナダブ	910−909	2
アサ	911−870	41	第二王朝	バシャ	909−886	24
ﾖｼｬﾊﾟﾃとの摂政政治	873−870	(3)	〃	エラ	886−885	2
ヨシャパテ	873−848	25	第三王朝	ジムリ	885	7日
ﾖﾗﾑとの摂政政治	853−848	(5)	〃	ティブニ	885−880	6
ヨラム　<u>**オバデヤ**</u>	848−841	8		ｵﾑﾘと共に統治	885−880	(6)
アハズヤ	841	1	第四王朝	オムリ	885−874	12
アタルヤ(女王)	841−835	6	〃	アハブ	874−853	22
ヨアシュ　<u>**ヨエル**</u>	835−796	40	〃	アハズヤ	853−852	2
アマツヤ	796−767	29	〃	ヨラム	852−841	12
ｱﾏﾂﾔの下で アザルヤの執政	790−767	(23)	第五王朝	エフー	841−814	28
			〃	エホアハズ	814−798	17
アザルヤ(ｳｼﾞﾔ)	790−739	52	〃	ヨアシュ	798−782	16
ﾖﾀﾑとの摂政政治	750−739	(11)		ﾔﾛﾌﾞｱﾑIIとの摂政政治	793−782	(11)
ヨタム	750−735	16	〃	ﾔﾛﾌﾞｱﾑII<u>**ヨナ**</u> <u>**アモス**</u>	793-753	41
ﾖﾀﾑの下でｱﾊｽﾞ執政	744-735	(9)		ゼカリヤ	753-752	1/2
ｱﾊｽﾞとの摂政政治	735-732	4	第六王朝	シャルム	752	1/12
アハズ	732-715	16	第七王朝	メナヘム	752-742	10
ｱﾊｽﾞの下でﾋｾﾞｷﾔ執政	729-715	(14)		ﾍﾟｶと共に統治	752-742	(10)
ヒゼキヤ	715-686	19	〃	ペカフヤ	742-740	(2)
ﾋｾﾞｷﾔの下でﾏﾅｾ執政	697-686	(11)		ﾍﾟｶと共に統治	742-740	(2)
マナセ　<u>**ナホム**</u>	697-642	55	第八王朝	ペカ	752-732	20
アモン	642-640	2	第九王朝	ホセア	732-722	9
ヨシヤ　<u>**ゼパニヤ**</u>	640-609	31				
エホアハズ	609	1/4				
ｴﾎﾔｷﾑ　<u>**ハバクク**</u>	609-598	11				
エホヤキン	598-597	1/4				
ゼデキヤ	597-586	11				

（　<u>　　</u>は預言者を表わす）

また、次の表で捕囚期の三人の預言者（ハガイ、ゼカリヤ、マラキ）の歴史的背景を確認したい。

捕囚期後の３預言書の歴史的背景：



ダニエル書

緒論：（Ｊ．ドワィト・ペンテコステのものに基づく）

ヘブル語聖書では、この書をエゼキエル書の後に置くのではなく、旧約聖書第三分類の「諸書」の12書の一つとして置いている。

エゼキエル書は第二分類の「預言書」の中にある。　イエス御自身ダニエルを「預言者」（マタイ24：15）と呼んでおり、預言者と同じ役割を担って神のことばを語ったとしている。

著者がダニエルであることに異論を唱えるものは福音主義学者の間ではない。　しかしながら、ダニエルの家族背景はダニエル1：3－6から推察できること以外は余り知られていない。　同世代の預言者エゼキエル（エゼ　14：14、20；　28：3）はダニエルについて触れ、彼が義人であり知恵に富む者であったと証言している。そこではダニエルは、ノアやヨブという古の信仰者に比肩される者

として紹介されている。　彼はバビロンの王ネブカデネザルがエルサレムを攻めた時（1：1、紀元前605）少年としてバビロンに連れて行かれ、クロス王の第3年の紀元前536年（10：1）まで預言活動を続けた。　実に約６７年間の預言活動ということになる。

ダニエル書は旧約聖書の代表的な黙示文学と考えられており、1：1－2：4aと8－12章がヘブル語で、2：4b－7：28がアラム語で記されている。　このことは、ダニエル書にある二つの強調を明らかにしている。　ヘブル語部分は、イスラエルの国に対する預言が中心となっており、アラム語は諸国に対する預言が中心であると考えることができる。　しかしながら、いずれも場合もメシヤによる究極的な王国の樹立が主要テーマである。　多くの批評学者がこの書の統一性や著者説について異論を唱えてきたが、十分な根拠をもっているとはいえない。

歴史的背景：

612B.C.にアッシリヤがバビロンとメディヤの連合軍によって敗北した。　バビロンのネブカデネザルが605B.C.に父親から王位を継承し、王国を確立した。　ネブカデネザルは605、597、588B.C.の３回に渡って南王国ユダを攻め、多くの人々を捕囚民として移した。

しかし、539B.C.にクロスがバビロンを倒してメド・ペルシヤ王国を打ち建てたとき、クロス王はバビロンに捕え移された諸国の民をそれぞれの祖国に戻す政策を採った。　そして538B.C.クロス王は発令し、ユダヤ人達が祖国に帰還することを許した（II歴代36：22－23；　エズラ1：1－4参照）。　約5万人のユダヤ人が約束の地に戻り、515B.C.には神殿を再建するこができた（エズラ6：15参照）。　エルサレムへの最初の攻撃（605）から、帰還と神殿の基を据える時（536）までが約70年、さらに、神殿の破壊（586）からその神殿の再建（515）までが約70年であり、エレミヤの預言（エ

レ25：11－12）は文字どおり成就した。

ダニエル書　梗概：

I　ダニエルの個人史（1章）

A　ダニエルの国外追放（1：1－7）
B　ダニエルの敬虔さ（1：8－16）
C　ダニエルの任命（1：17－21）

II　異邦人の時における異邦人の歴史（2－7章）

A　ネブカデネザルの夢（2章）
B　ネブカデネザルの像（3章）
C　ネブカデネザルの第２の夢（4章）
D　ベルシャツアルの大宴会（5章）
E　ダリヨスの勅令（6章）
F　４つの獣の幻（7章）

III　異邦人の時におけるイスラエルの歴史（8－12章）

A　雄羊と雄やぎの幻（8章）
B　７０週の幻（9章）
C　最後の幻（10－12章）

ダニエル書に見るキリスト預言：

ここでの大切な視点は、イエス・キリストに関する預言である。

どの旧約聖書もキリストを預言している。そして、それらは、歴史の中で実現し、成就する。　キリストの最初の歴史的な介入（初臨）による働きは、受難（十字架の死）、復活、召天、高挙に見る。　そして、父なる神とキリストは天から聖霊を遣わし（聖霊の降臨）、福音の宣教の業を進め、罪の許しを全世界の選びの民の全てにもたらしていき、最後にはキリストは天より再び介入し再臨し、ご自分の御国を完成される。

ダニエル書においては、キリスト預言を、2、7、8、9、10－12

章の５つの幻に見ることができる。　これらの幻を１つの表にまとめてみる：

ダニエル書における５つの幻

2章 金属	7章 動物	8章 動物	9章 「週」	10－12章 「国」	指示されている帝国
金	翼のある獅子				バビロン
銀	熊	雄羊	ﾒﾄﾞ・ﾍﾟﾙｼｬ	ペルシヤ	メド・ペルシヤ
銅	翼のあるひょう	雄やぎ		ギリシヤ (ｼﾘｬ/ｴｼﾞﾌﾟﾄ)	ギリシヤ
鉄 （鉄と粘土）	獣		ローマ		ローマ

ダニエル2：36－45

44節（ダ）　「この王たちの時代に、天の神は一つの国を起こされます。　この国は永遠に滅ばされることがなく、その国は他の民に渡されず、かえってこれらの国々をことごとく打ち砕いて、絶滅してしまいます。　しかし、この国は永遠に立ち続けます。」

ダニエル7：15－28

27節（ダ）　「国と、主権と、天下の国々の権威とは、いと高き方の聖徒である民に与えられる。その御国は永遠の国。　すべての主権は彼らに仕え、服従する。」

ダニエル8：16－26

25節（ダ）　「彼は悪巧みによって欺きをその手で成功させ、心は高ぶり、不意に多くの人を滅ぼし、君の君に向かって立ち上がる。　しかし、人手によらずに、彼は砕かれる。」

ダニエル9：22－27

24節（新）　「あなたの民とあなたの聖なる都については、７０週が定められている。　それは、そむきをやめさせ、罪を終らせ、とがを贖い、永遠の義をもたらし、幻と預言とを確証し、至聖所に油をそそぐためである。」

27節（ダ）　「彼は１週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。　荒らす忌むべき者が現われる。　ついに、定められた絶滅が、荒らす者の上にふりかかる。」

ダニエル11：40－12：13

11：45（ダ）　「彼は、海と聖なる麗しい山との間に、本営の天幕を張る。　しかし、ついに彼の終わりが来て、彼を助ける者はひとりもない。」

12：1－2（ア）（新）　「その時、あなたの国を守る大いなる君、ミカエルが立ち上がる。　国が始まって以来、その時まで、かつてなったほどの苦難の時が来る。　しかし、その時、あなたの民で、
あの書にしるされている者はすべて救われる。　地のちりの中に眠っている者のうち、
多くの者が目をさます。　ある者は永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに」

12：13（ア）　「あなたは終わりまで歩み、休みに入れ。　あなたは時の終わりに、あなたの割り当て地に立つ。」

著者が用いた言語が、ヘブル語（１：１～２：４前半）、アラム語（２：４後半7章）、ヘブル語（８：１～１２：１３）となっているが、その一番正当な説明は、本文中にある著者自身の心情表現をよく理解することにあると思われる。

７：１５
７：２８
８：１
８：２７
（上記の他、９：１～４；　１０：１２；　１２：１３を参照）

新約黙示書（ヨハネの黙示録を学ぶ）

２０１２．３．３１

序論：

　　先週の講義で、聖書の黙示文学書といわれる書物の中で旧約聖書からの代表として「ダニエル書」を学んだ。　　そこで黙示文学書の読み方として、黙示だから意味の確定は困難であると一方的に決めつけるのではなく、神からの人類に対する大切なメッセージが与えられていると信じて、著者が語っている本文そのものにしっかりと目を留め、著者の執筆意図を正確に読み取っていく必要があることを確認した。今回は新約聖書の黙示文学の代表と考えられている旧新約聖書の最後の書物である「ヨハネの黙示録」を取り上げる。

　Bible knowledge Commentaryの黙示録の注解者ジョン・ウォルバードによると、キリスト教会は、今まで次の４つの立場でこの書を解釈してきた。

（１）寓話的解釈法

３、４世紀のアレキサンドリア学派に起源を持つ。　　代表例として、アウグスチヌスは黙示録を教会における神と悪魔の闘争の寓話的表現と理解した。　　現代の自由主義の代表的な考え方としては、黙示録を神の究極的勝利の象徴的表示とする。

（２）過去的解釈法

黙示録を初代教会の受けた迫害の歴史と考える。　　この書は基本的には成就した過去の出来事が記されているとする。

（３）歴史的解釈法

この解釈法の起源は中世にある。　　黙示録は、キリストの初臨と再臨の間にある全教会時代を象徴的に表わしているとする。　　ルーテル、アイザック・ニュートン、エリオット等の千年期後キリスト再臨論者の支持した立場。　　黙示録が記述している事柄を具体的な歴史事実に対応させるところが非常に主観的になる。

（４）未来的解釈法

保守的学者で千年期前キリスト再臨論の立場に立つ者たちが支持。　４～２２章は基本的にはキリスト再臨直前（患難期７年、特に後半の大患難の３年半）の未来の出来事とする。

（４）の立場がウォルバードの立場であり、細部での違いはいくらかあっても基本的に保守的な学者の採っているものである。

以下の黙示録の序章と最終章（22章）の分析によってもこの立場の正当性は明らかである。

「ヨハネの黙示録」　がキリストの再臨を中心テーマとしていることは、以下の聖句からも立証できる

（下線部は資料作成者のもの）

1：1　「イエス・キリストの黙示。　これは、すぐに起きるはずの事をそのしもべたちに示す
ため、神がキリストにお与えになったものである。・・・」

1：7　「見よ、彼が、雲に乗って来られる。　すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を見る。　地上の諸部族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。」

1：8　「神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこう言われる。　『わたしはアルファであり、オメガである。』」

1：19　「そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書き記せ。」

22：6　「・・・預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。」

22：7　「見よ。　わたしはすぐに来る。　この書の預言のことばを堅く守る者は、幸いである。」

22：12　「見よ。　わたしはすぐに来る。　わたしはそれぞれのわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。」

22：17　「御霊も花嫁もいう。　『来てください。』　これを聞く者は、『来てください。』と言いなさい。・・・」

22：20　「これらのことをあかしする方がこう言われる。　『しかり。　わたしはすぐに来る。』
アーメン。　主イエスよ。　来てください。」

ヨハネの黙示録　梗概：

本書自体が明らかにしている書の輪郭を序章である1章の記述から先ず見てみよう。

1：2　「ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。」

1：11　「その声はこう言った。　『あなたの見ることを巻き物にしるして、７つの教会、すなわち、エペソ、スミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りなさい。』」

1：19　「そこで、あなたの見た事、今ある事、この後に起こる事を書きしるせ。」

ここで、1：1の記述と合わせて結論を下すことが可能である。即ち、この書はキリストが御使いを用いて弟子ヨハネに幻を見せて、今ある事と後に起こる事を記させてそれを７つの教会に送らせたものである。　今ある事、すなわち、７つの教会の紹介とそれらへのメッセージは2〜3章に出てくる。　後に起こる事、すなわち、キリストの再臨に至る状況と再臨、義人の復活、千年王国の樹立、不信者の裁き、永遠の御国の到来、等は6章から22：5に出てくる。これらの啓示がヨハネに与えられる時には、啓示を与えるキリストがヨハネに現われている（1：9－16；　4〜5章）。

後に起こる事に関する記述は6章から22：5になされているが、その部分は３つの種類の幻でなされている：　７つの封印、７つのラッパ、７つの鉢　である。　この３つの幻のシリーズは、厳密な時間的順序で並べられているのではなく、重なりを示しながら、最後のクライマックスである「キリストの再臨」に焦点を合わせていく文学的手法が採られている。　これは、丁度、オリーブ山での終末講話における主イエスの語りの手法と同じものである。　例えば、マタイ24：4－31の歴史的記述において、（１）24：1－14は、キリストの再臨に至る全世界に起こる一般的な徴の記述；　（２）24：15－28は、キリストの再臨の舞台となるユダヤの地に登場する反キリストとその患難時代の記述；　（３）24：29－31は、キリスト再臨直前の天体異変に続く再臨と選民の復活の勝利、が記されている。　ここでの３つにみる記述も、厳密な時間的な順序ではなく、時間順序を全体的には認めながらも、焦点を徐々に遠景クライマッ

クスから近影クライマックスに合わせていく手法に基づくものである。

この（1）⇒（2）⇒（3）のキリストの記述方式は、7つ封印⇒7つのラッパ⇒7つの鉢　のヨハネの記述方式のモデルとなったと考えられる。　以上の議論から、次の梗概が出てくる。

ヨハネの黙示録　アウトライン：

I　序論（1：1－8）

II　本論（1：9－22：5）

A　7つの教会へのキリストのメッセージ、「今ある事」（1：9－3：22）

1　啓示を与えるキリストの顕現（1：9－20）

2　エペソ教会へのメッセージ（2：1－7）
スミルナ教会へのメッセージ（2：8－11）

3　ペルガモ教会へのメッセージ（2：12－17）
テアテラ教会へのメッセージ（2：18－29）

4　サルデス教会へのメッセージ（3：1－6）

5　フィラデルフィア教会へのメッセージ（3：7－13）
ラオデキヤ教会へのメッセージ（3：14－22）

6

7

8

B　7つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」（4：1－22：5)

1　啓示を与えるキリストの顕現（4：1－5：14）

a.　ヨハネの啓示への召し（4：1）
b.　ヨハネの見た天の御座の光景（4：2－11）
c.　7つの封印の巻き物を受け取るキリスト（5：1－14）

2　キリスト、7つの封印を解く（6：1－8：1）

a. 第１の封印　－　白い馬（6：1－2）
b. －　赤い馬（6：3－4）
c. 第２の封印　－　黒い馬（6：5－6）
d. －　青ざめた馬（6：7－8）
e. 第３の封印　－　殉教者（6：9－11）
f. －　神と小羊の御怒りの大いなる日（6：12－17）
第４の封印　－　最後の収穫、イスラエルと諸民族（7章）
－
第５の封印　－
－
第６の封印　－
－

(g. 第７の封印　－　７つのラッパ（8：1））
－

３　７つのラッパが吹き鳴らされる（8：2－16：1）
.

a. ７つのラッパへの備え（8：2－6）
b. 第１の御使いのラッパ吹き鳴らされる（8：7）
c. 第２の御使いのラッパ吹き鳴らされる（8：8－9）
d. 第３の御使いのラッパ吹き鳴らされる（8：10－11）
e. 第４の御使いのラッパ吹き鳴らされる（8：12－13）
f. 第５の御使いのラッパ吹き鳴らされる（第１のわざわい）(9:1－12)
g. 第６の御使いのラッパ吹き鳴らされる（第２のわざわい）(9:13－11:14)
h. 第７の御使いのラッパ吹き鳴らされる（第３のわざわい）(11:15－15:1)
i. 第３のわざわいとしての７つの鉢の神の激しい怒り（15：2－16：1）

４　７つの鉢（神の激しい怒り）ぶちまける（16：2－22：5）
.

a. 第１の御使いの鉢ぶちまける（16：2）
b. 第２の御使いの鉢ぶちまける（16：3）
c. 第３の御使いの鉢ぶちまける（16：4－7）
d. 第４の御使いの鉢ぶちまける（16：8－9）
e. 第５の御使いの鉢ぶちまける（16：10－11）
f. 第６の御使いの鉢ぶちまける（16：12－16）
g. 第７の御使いの鉢ぶちまける（16：17－22：5）
（１）　神の激しい怒りによるバビロンの裁き（16：17－18：24）
（２）　キリストの再臨と獣の裁き（19：1－21）
（３）　聖徒のよみがえり、千年王国、サタンと不信者の裁き（20:1－15）
（４）　新天、新地の確立と聖徒の救いの完成（21：1－22：5）

III　結論（22：6－21）

本論ー「救いの完成とキリスト再臨」を黙示録に探る：

上記の梗概に基づき、私たち人類の救いの完成とキリスト再臨の視点から、黙示録の中に啓示されているキリストの教会に対するメッセージから、考察することのできる事柄を列挙してみよう。

＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「今ある事」よりの考察＞

１．小アジアにあったこれらの７つの地域教会は、それぞれキリストから特徴的なメッセージを受けた。　しかしながら、彼らの受けたメッセージは、どの時代の教会にもあてはまるような普遍性を持っていたので、どの教会のメッセージの場合も最後の部分に「耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」　（2：7、11、17、29；　3：6、13、22）という表現がある。

２．これらの７つの教会（そして他の諸教会）の究極的希望が「勝利を得る者」　（2：7、11、17、26；　3：5、12、21）として紹介されている。　これらの教会の得る勝利は全てキリストの再臨　（19章）によってもたらされることは、19〜22章内にほとんどの勝利の内容が明らかにされていることからもわかる。

３．２．の観察から、これら７つの教会を代表者とする地上の全ての諸教会の救いの完成は、4章以下に記されているキリストの再臨とそれに続く千年王国と永遠の御国の確立であることが明らかである。　旧約の神とイスラエルとの諸契約（アブラハム契約、モーセ契約、ダビデ契約、預言者たちによる契約）の成就の姿は、教会の究極的な姿である黙示録20〜22章に見ることができる。

＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」での７つの封印の考察＞

１．ヨハネは御座を見せられ、そこに登場する２４人の長老（多分、旧約時代と新約時代で完成される全ての聖徒達を代表する天使達）と４つの生き物（多分、全被造物を代表する天使達）が神を賛美し、礼拝する姿を見る。　勝利を得る者達の向かっている歴史の究極の光景が見せられている（4：2－11）。

２．ヨハネは、更に、７つの封印で閉じられた巻き物（神の御計画されたキリスト再臨と歴史の完成に至る課程を明らかにしている）を解き、その内容を説き明かす人物は、勝利者である神の小羊、イエス・キリスト以外にはありえないことを示される（5：1－14）。

３．解かれた６つの封印で明らかにされたものには、特徴的なコントラストがある：

第１の封印　「白い馬」（6：2）
　勝利（福音の前進、人々の救い）

第２の封印　「赤い馬」（6：4）
　裁き（戦争、争い、その他）

第３の封印　「黒い馬」（6：5）
　守り（困難の中での神の配慮）

第４の封印　「青ざめた馬」（6：8）
　裁き（剣、ききん、死病、その他）

第５の封印　「神のことばと・・あかしのため
　　に殺された人々のたましい」（6：9）
　殉教者（困難な中での救霊の前進）

第６の封印　天変地異と裁き（6：12－17）
　最終的裁き（神とキリストの裁き）

キリスト再臨に至る最後の歴史も、教会時代の今までと基本的に変わることがなく　、困難の中で福音が語られ多くの人々が入信に導かれて究極的勝利へと向かう。

しかしながら、不信仰な人間の反抗と罪深さも増し加わる中で、神の裁きも究極の神とキリストの「御怒りの大いなる日」（6：17）に向かって、厳しくなっていくことが示唆されている（6章）。

４．6章について、ペンテコステ（"Things to Come"のpp.280-82）は、イエス・キリストの終末論講話（マタイ24：4－31）との間に驚くばかりの類似性があることを指摘しており、ウォルバードもそれを認めている。　第２の封印から　第６の封印の中心的内容である、戦争、飢饉、死、殉教、天体異変、神の究極的裁きが、マタイ24－25章において同じ順番で出てくる。　ここから、マタイとヨハネの終末論の提示が基本的に等しいことがわかる（いずれもキリストによる啓示）。

５．幕間（まくあい）の7章は、レンスキーが指摘しているように、この書の一番重要なメッセージが何であるかを確認する大切な部分である。　この歴史の最後の部分において、民族イスラエルに豊かな救いの恵みが注がれ（7：3－8）、世界の諸民族に大いなる救霊の業が起こるのである（7：9－17）。

＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」７つのラッパの考察＞

１．封印、ラッパ、鉢によるヨハネの終末描写に、時間的順序の大枠が在ることは多くの学者の一致した見解ではあるが、厳密な数学的な順序ではない。　例えば、7章で明らかにされている終末時代におけるイスラエルの回復を示す14万4千人の救いは、14章の中にも語られている。　封印がイエス・キリストの初臨から再臨に至る一般的特徴を明らかにし、ラッパは終末時代の最後の部分（患難時代）の神の裁きを明らかにしている。　しかし、ラッパによる神の怒りが注がれる中で、神の救いの勝利の御業が確立されていく姿が明らかにされている。
この傾向は、７つの鉢の記述の場面ではなお顕著になっている。

２．ラッパの時期における神の聖徒の証しと伝道の業をしっかり読み取る必要がある。これらの信仰者は今の時代の信仰者とは別の人々と理解する人々もいるが、その聖書的根拠は弱い。　8：3、4の「聖徒の祈り」にみる聖徒の存在；9：4の「額に神の印を押されていない人間」の存在は額に神の印の押されている人間の存在を示唆する；11章の２人の証人の伝道活動は信仰者の存在をはっきり示す；12：17の「女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスの　あかしを守っている者たち」は明らかに患難期のキリスト者である；13：8の獣を拝むようになる「ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされていない者」の存在は名を記されている聖徒達を暗示（13：7、10；　14：12　他）している；14章のシオンの山に小羊と共に立つ14万4千人の聖徒達；これらはいずれも患難時代におけるキリスト者の存在を明確に示している。

３．ラッパの裁きは、不信者に対するものであることをはっきりと聖書から読み取る必要がある

（6：16、17；　8：2－5；　9：4、20－21；　14：9－11）。　大変な時代、聖徒達は主の豊かな守りを体験する（7：3；　11：5、6、12；　12：14－16；　14：11、12）。

４．２匹の獣は、今の世界の政治状況と無関係ではない。　今の世界の諸国と組織の中からこれらの獣は登場する筈であるからである。　「海からの一匹の獣」（13：1）は政治的に世界を統一する独裁者であり、「もう一匹の獣が地から上って来た。」（13：11）は、明らかに最初の獣と結託してそれを拝ませる偶像礼拝を世界中の人々に強制する第二の獣を描いている。

＜７つの教会へのキリストのメッセージ、「後に起こる事」７つの鉢の観察＞

１．11：15から開始する「第７の御使いのラッパ」が吹き鳴らされた直後に裁きではなく、勝利の宣言がなされているのは意義深い。　「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。　主は永遠に支配される。」（11：15）が先ずあり、その後で、「諸国の民は怒りました。　しかし、あなたの御怒りの日が来ました。　死者のさばかれる時、あなたのしもべである預言者たち、聖徒たち、・・・すべてあなたの御名をおそれかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅ぼされる時です。」（11：18）と裁き中心の宣告がある。　ここに見る輪郭は、明らかに19～22章にみるキリスト再臨と二匹の獣に対する裁き、キリストの千年王国支配と聖徒のよみがえり、この第一の復活に与らなかった死者の裁き、神とキリストの永遠の支配の確立、にも見ることができる。　言い換えれば、７つ目のラッパの中に出てくる７つの鉢（15、16章）の視野は、単に裁きだけではなく19～22章における究極的勝利をも含んでいるということである。

２　この時期においては、イスラエル民族が大きな役割を担うこと（12：1、4－6、14、
.　17；　14：1－4；　16：16）が明らかであり、獣は激しい攻撃をユダヤ人、異邦人聖徒に加える（11：7；　12：17；　13：10；　14：12；　15：2；　16：6；　17：6；　18：20、24；　19：2）ことになるが、聖徒たちの勝利は定まっている。

３　鉢の裁き（ラッパの場合もそうであったが）は、獣と獣に従っている者たちへの裁き
.　（16：2、6、9、10）である。　このような時期、キリストに従う多くの者たちは殉教するが、かれらは守られて最後まで福音を宣べ伝えることになる。
（11：3；　12：17；　14：6、12；　15：2；　17：6、14；　18：24）
そして、彼らは再臨のキリストによって迎えられ、キリストにある死者はよみがえって千年王国の祝福の中に入れられるのである（19：6－8；　20：4－6）。

４　旧約聖書において、神はアブラハムに対して彼の身から出る民族と諸国の民の祝福を
.　約束された（アブラハム契約）。　同じ祝福の約束を神は、モーセ契約の中で語り、ダビデ王に対する約束の中でも繰り返した。　さらに、預言者たちを通して同じ約束を「新しい契約」としてメシヤによって実現されるものとして、神は啓示した。　新約聖書は、メシヤの登場（初臨）と救いに無くてはならない贖いの業（十字架）の歴史的事実を証言している。　救いの完成に至る次のステップは、キリストの再臨であるが、ヨハネの黙示録はまさしくこの題材を扱っており、キリストの再臨は、どのような一連のキリストの勝利の御業につながっていくのかが明らかにされている。　19章のキリストの再臨、20章のサタンの縛りと聖徒の復活（第一の復活）、千年王国の樹立と支配、サタンの最後的裁き、死者の復活と裁き（第二の死）、21－22章の永遠の御国の樹立と祝福、は救いの完成のもたらす描写であることは確かである。　これが、歴史の終焉なのである。　キリストにある者たちの勝利の光景である！

・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・　・

・著者：眞鍋　孝

・発行日：（電子書籍）

２０１５年４月２９日

・発行者・発行所

Piyo Bible Ministries
ピヨ バイブル ミニストリーズ　発行
代表：井草晋一
http://peterpooh.sakura.ne.jp/Piyo_Bible_Ministries/

〒665-0877
兵庫県宝塚市中山桜台６丁目１５－１－１３１０
Tel. 090-5367-9221

ーーーーーーーーーーーーーーーー

制作・出版

Piyo ePub Communications
ピヨ イーパブ コミュニケーションズ

1310, 15-1, 6 cho-me, Nakayama-Sakuradai, Takarazuka-city,
Hyogo 665-0877, JAPAN

http://piyo-epub.com